

## 令和5年度第3回認知症施策検討委員会 報告

日時 令和6年2月15日(木)

13:30~15:30

場所 高梁市役所3階大会議室

### 1. 開 会

あいさつ(河本委員長)

委員会で認知症の本人の声を聴いて本人支援について考えるという機会をもらい、自分でも認知症本人の声を聴いてまとめてみた。本人が認知症を受け入れて、周囲も受け入れていると本人からもポジティブな声を聞くことができたが、本人や家族が受け入れられていないと発言がネガティブなことがある。認知症についてしっかりとみんなで理解して支援をしていくことがやはり重要であり、認知症支援が進み、当事者になっても明るく生活できるような地域となればと思う。

### 2. 協議内容

1) 令和5年度認知症総合支援事業等の実績及び評価について(別紙のとおり)

#### 質問

- ・認知症サポーターステップアップ講座の開催、チームオレンジの立上げと進んでいるが、チームオレンジはどのような活動をどの程度の頻度で行っているか?

→布瀬のわ: 週1回元気なからだづくり隊の体操参加への声掛け、誘い出し、日頃の声掛け

かわかみ: 認知症カフェ、元気なからだづくり隊の体操に本人が参加できるような声掛け、誘い出し

羽場: 月1回のサロンにみんなが参加出来るような声かけ、誘い出し

既存の集いの場にスムーズに参加できるような支援を行っている。

- ・認知症初期集中支援チームの対応件数が1件が続いていたものが今年度は3件と3倍になった。サポート医との連絡会議を行うことで話が進みやすくなったのか? 来年度もこのままの勢いで件数が増加していきそうか?

→連絡会議をすることで顔が見える関係ができ、サポート医と連携を取りやすくなり、支援が止まりやすかったものが進んでいきやすくなった。また、相談があった対象者が困っている状況があり、サポート医とも連携が図りやすい状況もあった。

認知症初期集中支援チームの支援対象となるという視点を持って、ケースを取りこぼさないようにしていくことが大切であると感じている。

- ・成年後見制度の市長申立てが今年度1件、昨年度2件と少ないように感じる。こ

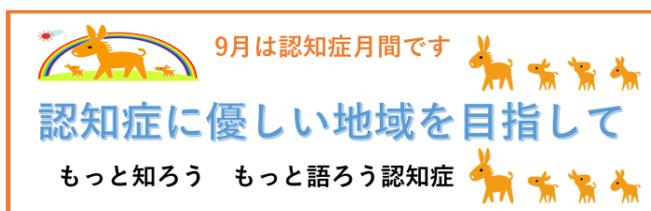
れは対象者はいるが申立て出来ないのか、そもそも対象となる人がいないため少ないのか。

→権利擁護センターが出来たことで早期から相談することが可能となったため、市長申立てではなく、本人・親族申立てを行う人が増えているのではないかと思う。

## 2) グループワーク

### ①認知症月間等で活用する横断幕のデザインについて

(C)



(A)



- ・ Cの「認知症に優しい地域を目指して」という言葉が良い。何をしているか分かりやすい。
- ・ 目立つのはA、AとCをミックスするのが良い。
- ・ パッと見て目を引くものが良い。
- ・ 目的、用途によって文字のバランスを考えた方が良い。
- ・ Cはロバが多いので減らして文字を大きくする。
- ・ 背景をAのようなオレンジ色にした場合、文字を何色にするのが良いか検討が必要。

### ②認知症ケアパスの活用方法について

- ・ 薬局に支援者向けと本人向け両方の認知症ケアパスを置いているが、本人向けの方が減っている。
- ・ 警察は色々な人が来るため警察署に置くことは難しい。  
(署内で確認していただき、置くことが可能となった。)
- ・ ケアパスを手にとった人がどう感じたかをフィードバック出来れば良い。
- ・ 市役所では地域包括支援センターに置くだけでなく、入口や高齢者が行く頻度の高い窓口に置いてはどうか。
- ・ 銀行、かかりつけ医等どこに高齢者は行っているか、高齢者がどこにいるか、高齢者がよく行くところに置いてはどうかという話になった。
- ・ 自動車教習所で高齢者講習実施しており、置いてもらってはどうか。
- ・ 市民センターにも置いているが、開いて見てもらわないと意味がない。市民セ

ンター等で開いた状態で印刷したものを掲示する。

- ・ 地域の会合などで説明する等開いて見てもらえるような声掛けを行う。
- ・ インスタグラム等市の SNS で発信し、ヤングケアラー等にも見てもらえるようにする。

(河本委員長)

本人用ケアパスは良いものができているが、成果が見えにくい。みんなに見てもらい、少しでも安心して過ごせる人が増えれば良いと思う。

### 3. その他

- ・ 委員の任期終了について

### 4. 閉 会 (妹尾副委員長)

委員会で年間を通じた活動を通して実際に行ってみただけで難しかったこと等もあり、色々な活動を行うことで少しずつ認知症の人への支援が進んでいるように思う。委員会を通じ、色々な意見を聞くことで自分自身の学びの機会にもなっている。認知症になっても住みやすい地域となるように小さいことから取り組んでいきたい。